

1 研修プログラムの目的及び特徴

一年目の研修では必修内科 24 週のうち、4 週の研修を行う。

内科診療における専門的知識、技能、態度を習得し、診療をおこなう上での医療全般にわたる基礎的臨床能力を習得する。

二年目の選択研修期間（4～8 週）においては、一年次の研修を更に発展させる研修とする。

2 研修指導責任者

弥富 真理 （呼吸器内科部長）

研修指導医

弥富 真理 （呼吸器内科部長）

高橋 由希子 （呼吸器内科医師）

石井 大介 （呼吸器内科医師）

望月 隆汰 （呼吸器内科医師）

井上 貴登 （呼吸器内科医師）

磯松 慧 （呼吸器内科医師）

3 研修内容と到達目標

（1）基本的目標（GIO）

内科における基本的知識、技能、態度を習得し、診療をおこなう上で呼吸器の形態と機能、呼吸器疾患全般にわたる基礎的臨床能力を習得する。

医師としての患者・家族とのコミュニケーションの取り方、医療スタッフとの協調、プレゼンテーション技能、医学的考察、問題解決能力の研鑽を習得する。

（2）具体的な行動目標（SBOs）

1) 呼吸器疾患における病歴聴取

呼吸器疾患を診療するうえで重要な病歴の聴取（既往歴、合併症、職業歴と粉塵吸入歴、喫煙歴、ペット歴、生活環境）などの医療面接技術を習得する。

2) 理学所見

胸部聴診、打診、呼吸の状態（呼吸のリズム、呼吸補助筋の使用の程度）などの視診より全身の所見を観察できる。

3) 代表的呼吸器疾患の診断治療

肺癌、肺炎、気管支喘息、COPD、急性肺血栓塞栓症、慢性肺血栓塞栓症、間質性肺炎、胸膜炎、自然気胸等の疾患について指導医とともに担当し、検査、診断、治療を担当しその診療法を習得する。

4) 基本的検査法

胸部 X 線写真、CT 画像における異常所見をとらえることができ、適切な用語で表現し鑑別疾患を掲げることができる。

血液ガス所見を評価し、病態の説明ができる。

肺機能検査の目的を理解し、必要な項目の選択と結果の評価ができる。

気管支鏡検査の適応・合併症について説明し、観察所見を的確に表記できる。

胸水試験穿刺の必要性について理解し、結果の解釈から病態を評価できる。

喀痰検査の意義を理解し、必要な項目を的確に依頼できる。

5) 基本的治療方法

人工呼吸管理（鼻マスク使用、挿管下）の適応を理解でき、患者家族に説明を行える。

上級医の指導の下、NPPV 装着、挿管、人工呼吸器の設定等ができる。

酸素管理法、動脈血液ガス分析の評価法、在宅酸素療法を習得する。

呼吸理学療法の意味・適応について理解し、実施できる。

睡眠時無呼吸症候群に対し、nasal CPAP を理解説明し、扱える。

6) 患者教育

予防医療の理念を理解し、食事・運動・禁煙指導とストレスマネジメントを習得する。

呼吸器疾患（気管支喘息、慢性呼吸不全、禁煙指導等）における患者教育を習得する。

緩和医療について理解し、上級医とともに患者に適切に対応（緩和ケアチームへのコンサルト含む）する。

4 学習法略 (LS)

1) 病棟研修

指導医・上級医とともに入院患者を副主治医として担当する。

スタッフと共に回診を行い、問題点の整理、検査・治療計画に参加する。

カルテ記載を行い指導医・上級医に指導を受ける。

2) 外来研修

スタッフと共に患者の所見・診断・治療方針の決定に関わる。（二年次）

3) 症例検討会、カンファレンス

受持ち患者の問題点を整理し、文献検索、症例のプレゼンテーション、コンサルテーションを通じて問題点への考察、検査計画、治療計画の立案を図る。

4) 実技研修

気管支鏡、肺機能検査、放射線・核医学検査に参加し、その適応、実施方法、診断に関わる。

週間スケジュール

月曜日	朝カンファレンス 外来・病棟研修	内科勉強会
火曜日	朝カンファレンス 外来・病棟研修 気管支鏡検査	内科症例検討、呼吸器内科症例検討会
水曜日	朝カンファレンス 外来・病棟研修	呼吸器症例（外科内科合同）検討 画像読影
木曜日	朝カンファレンス 外来・病棟研修	抄読会
金曜日	朝カンファレンス 気管支鏡検査	一週間のまとめ

* 外来研修は二年次に研修

5 評価方法 (EV)

SB0s	目的 対象	方法	時期	測定者
1) -3)	形成的 態度・技能	実地観察	中・後	指導医 コメディカル
4) -7)	形成的 知識・技能	実地観察、口頭	中・後	指導医
8)	形成的 知識・解釈	実地観察、口頭、 レポート	中・後	指導医

6 研修医の評価

研修医は PG-EPOC に自己の研修内容を記録、評価する。

実施責任者および看護師を含むチーム医療のスタッフが、研修医の診療および研修態度を評価する。指導医はローテーションごとに研修の全期間を通じて研修医の観察・指導を行い、目標達成状況を研修医評価票Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、症例レポートから把握し形成的評価を行う。なお、評価票はインターネット上のシステム（PG-EPOC 等）を使用する。

各評価をもって二年目修了前に研修管理委員会にて総括的評価を行い、修了判定の資料とする。

初版：令和4年1月24日

改訂：令和7年2月28日